

ネパール人の 正規雇用増へ

丸新志鷹建設(立山)

建設業の人手不足が深刻化する中、ネパールやブータンなど南アジアでの工事受注を増やしている丸新志鷹建設(立山町)は、ネパール人の正規雇用を増やす。併せて安倍晋三首相の新たな成長戦略の一つ、「担い手」拡充策として打ち出した外国人技能実習制度を活用し、ネパール人3人程度を5年間受け入れる。日本の土木、建設の技術を伝えることで同国に貢献する。

(社会部部长アスク・浜浦徹)

丸新志鷹建設は、本社を置く立山町吉野崎とネパールのクムジユン村との地域間交流をきっかけに1992年にネパール支店を開設し、地元雇用の受け皿を担ってきた。一方、本社では94年から10年間、研修生計88人を受け入れた。

信頼関係を土台に2008年以降、同国の給水事業やかんがい事業などの国家プロジェクトに次々と参入。昨年8月からは、ネパール全土の計350の学校に教室を増築する「学校支援プロジェクト」に加わり、

南アジアでの仕事量が増えたことから、昨年4月から獨協大大学院を修了したネパール人のサンディプ・アディカリさん(27)を本社で採用。サンディプさんは「ネパールのイン

土木・建設 技術伝授 現地工事に貢献

フラ整備に貢献したい」と話し、契約や連絡調整などの国際業務を担っている。8月にはネパールの大学を卒業する技術者を支店に正規採用する。現場経験を積んだ後、本社採用を検討する。

また2020年開催の東京五輪関連工事などによる建設需要拡大をにらんで拡充される外国人技能実習制度に注目し、研修生受け入れを再開する。来年度以降、鉄筋や型枠などの専門技術者を年3人程度で5年間受け入れる計画という。志鷹新樹社長は「ネパールの若い労働力を確保し、将来はネパールに日本の技術を



本社に採用され国際業務を担当するサンディプ・アディカリさん(手前)。左は志鷹社長

立山町吉野崎

「移転していきたい」と話す。